

コーディネーター研修会開催報告

1. 日時：2025年7月29日（火）10時20分～14時10分
2. 場所：コープあおもり本部集会室
3. 参加者：コーディネーター16名、幹事1名、県連4名、合計21名
4. 研修概要

コーディネーターは、活動会員と利用会員を結び付け、活動を組織する責任者の役割を果たします。利用会員の要望をしっかりと聞き取り、活動会員の希望とマッチングさせていく、大事な役割です。たすけあいの会では年1回、県内から集まって、対面での研修会を実施しています。

今回の研修会では、「介護保険はこれからどうなる？～人手不足・制度改悪・地域で支える力」と題して、青森保健生協介護部長の田川武様にお話しいただきました。人手不足や経営困難で介護事業所を閉鎖するところが増えています。また、これからは高齢者が増えて介護が必要な人が多くなっていくのに、介護職の離職が増えている現状が報告されました。たすけあいの会にも、事業所閉鎖になったので通院付添を願ひ、掃除に入ってほしいなどの依頼があります。しかし、それは制度が機能しなくなったのでその補完に私たちが使われているとの現象面だけを見るのではなく、どんな時でも地域の中で支える力を大きくしなやかに強くしていくことが大切だと強調されました。「地域で支える力」に多くのコーディネーターが大きくなっています。

2つめのプログラムは、事例研究です。各地域から共有したい事例を報告してもらい、意見交換しました。青森地域からは、「緊急事態への対応と連携について」と題して、突然「助けて！」と本部事務局の電話がなり、コーディネーターと地域包括支援センターとの連携で対応し、無事入院させることができた事例について報告がありました。八戸上北地域からは、「利用会員と活動会員の関係づくり」の悩みが報告されました。様々な依頼に一生懸命対応しているが何かしっくりしない、関係性に悩む活動会員への対応について検討しました。弘前黒石地域からは、「障がいを持っている方への対応について」の報告がありました。視覚障害のある利用者さんのところに生協注文書の記入とゴミ出しに週1回通っています。ゴミが落ちていても見えない方に掃除しましょうかと言ってもよいのか、迷いながらの活動ですが、利用会員さんが生活しやすいようにこれからもお手伝いしていきますと話されました。最後に、むつ下北地域からは、「一人暮らしの高齢者に寄りそう」と題して、週2回、話相手と調理で活動に入っている様子を報告しました。利用者さんにメニューを考え、買物をしてもらい、味付けも最後は利用者さんをお願いしてと、ボケ防止も考えて一緒にやっています。ずっと自分の家で暮らしたいと強く願う気持ちに、お手伝いできることはしてあげたいと心から思います。「今までの活動の中で一番やりがいを感じています。」とのこと。

午後からは、午前の講演の感想や事例についての質問や意見を出し合い、たすけあいの会の役割について討論しました。

<参加者の感想>

- ・制度にも限界と可能性もあり、完璧をめざすのではなく、「つながる」ことが第一歩になることなど、小さな対話と実践の積み重ねにより、未来を変えるチャンスになることなどがわかりました。
- ・今の介護保険の課題を知り、今後たすけあいの会の役割の大切さが見えた気がする。
- ・八戸の発表がとても心に残りました。コーディネーターはどこまでやってあげればよいのか、B会員さんにいかに気持ちよく活動してもらえるのか、考えていくことだと思いました。